

## 「仕事の取り組み姿勢について」

### I 基本姿勢

#### (使命感・責任感)

- 1) 一人一人の仕事は、厚生労働省の一職員という枠を超えて、厚生労働省、国の仕事そのものであり、一人が取り組んでいる課題は省全体、あるいは政府全体の課題である。その課題への取り組み方次第で、国民、個々人の運命が変わるといふぐらいの使命感・責任感を持った仕事をする。また、すべて国民から期待されている、あるいは国民から負託されている仕事であり、常に現在及び未来の国民が何を考え選択するか、直接のエンドユーザーに何を期待されているのか、想像力を持って取り組むこと。

#### (現場感覚・感度の醸成)

- 2) 現場、現状把握能力を高め、生の情報、最新の情報で考える努力をすること。それにより、社会の変化等についての感度を高めていくこと。固定観念にとらわれず、フレキシブルな吸収力を持つこと。

#### (広い視野・全体感)

- 3) 広い視野で考えてほしい。横断的な構築力を高めること。つまり、局や課のレベルでのみ考えるのではなく、部局や省庁を超えた全体感を磨くこと。政策相互の関係性や全体での位置づけを常に考え、総合力を意識した政策立案を心がけること。

### II 留意点

#### (数値目標・見える化)

- 4) できる限り数値目標等や具体的な達成目標が明確化されるような「見える化」を心がけること。

#### (シンプルさ)

- 5) 国民にとって、聞いて分かる。分かり易く、的確に知っていただくことを大切に仕事。施策のコア、最も重要なポイントをできるかぎり簡潔に表現できるようにすること。

**(スピード感・タイミング)**

- 6) スピードとタイミングが大切である。仕事に期限を設けて対応するとともに、取り組んでいる仕事の優先づけを行い、ベストタイミングを探ること。

**(上司及び政務三役への報告)**

- 7) 仕事に関して指示を受けたときは、その仕事の完遂後に必ず報告すること。指示を受けた仕事が完成しても、完成した報告を上司に上げなければ、その仕事は完了したことにはならない。時間がかかる場合は、中間報告を忘れずにすること。また、悪い情報は抱えこまず、可能性の段階でも、すばやく上げること。判断を誤らないためでもある。

**Ⅲ 仕事のチェック**

**(第3者の視点から)**

- 8) 自己満足することなく、常に第3者の視点から、他人の視点で物事を考える努力をすること。

**(マーケティング・アフターサービス)**

- 9) 新規の施策はもとより、既存の事務・事業についても、いわゆる事業のマーケティングを行い、その運用実態や利用者の評価などを把握して、常に改善に努めること。民間でいうアフターサービスの考え方を実行する。

**(ムダの排除・効率性)**

- 10) 重複した事務・事業はないか。コスト意識をもって効率性の観点から常に厳しい目で評価し、ムダを排除し、効率的な運営を目指すこと。

**～最後に～**

- 職員の声や様々な提案について、いつでもお聞きしたい。部局を超えて様々なアイデアを積極的に提案してほしい。
- ますます厚生労働省の施策の広がりをみせ、取り組まなければならない課

題と業務は増大している。職場環境の改善・業務負担の軽減は重要である。職員一人一人の業務配分を考えるとともに、日々の会議等の効率化、時間の使い方など、非効率はできるだけ排除していくよう考える。昨日やったことを今日も同じようにやるのではなく、昨日より少しでも改善しようという努力の積み重ねが大切である。

- 心身ともに健康でなければ良い仕事ができない、健康管理とリフレッシュを心がけていただきたい。厚生労働省から率先してワーク・ライフ・バランスの推進者とならなければならない。仕事は集中してするが、終わったら大いにリフレッシュすることが、活気ある職場をつくることにもなる。
- 組織として効率的に仕事を進めていくため、管理職は、以上の10の視点をもとに組織をマネジメントすることが重要である。業務が増大する中でも一人一人の負担を軽減し、ワーク・ライフ・バランスにも配慮できるような業務の見直しや配分の見直しを行っていく必要がある。
- 皆様方の給料は国民の税金から支払われていることを常に銘記し、厚生労働省の再生・信頼される厚生労働行政を目指して、一緒に手を携えていきましょう！